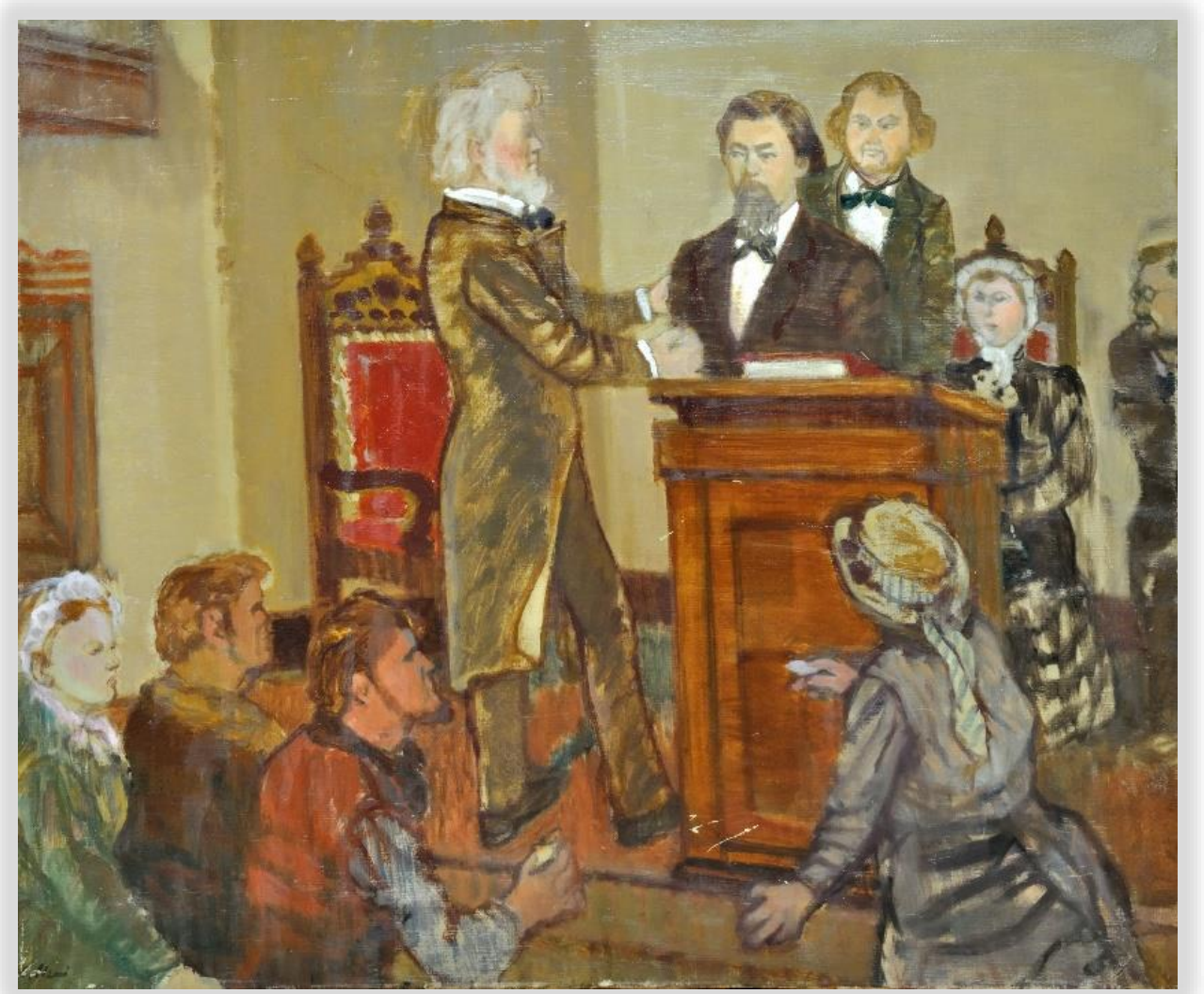
同志社京田辺会堂光館ラウンジ展示第 14 期展
「同志社の ORIGIN
－ALL DOSHISHA からのサポート－」



〔開催概要〕
同志社京田辺会堂光館ラウンジ展示第 14 期展
「同志社の ORIGIN－ALL DOSHISHA からのサポートー」

会期：2022 年 3 月 18 日～2022 年 6 月中旬
会場：同志社京田辺会堂光館ラウンジ（同志社大学京田辺キャンパス）
主催：同志社大学キリスト教文化センター
協力：同志社大学同志社社史資料センター

表紙資料：油彩画「ラットランド演説」1960 年代

ごあいさつ

同志社京田辺会堂言館（KOTOBA-KAN）及び光館（HIKARI-KAN）が献堂された 2015 年度より、同志社社史資料センターの協力を得て、光館（HIKARI-KAN）ラウンジで 1 年に 2 度（春学期と秋学期に）の企画展示を行っています。展示は学部の修業年限である 4 年（8 期分）を 1 サイクルとし、4 年ごとに企画内容を繰り返すことになっています。

2019 年度春学期の第 9 期から第 2 巡目に入りました。本来ならば、この 2022 年度春学期は第 15 期の展示となるはずですが、第 11 期の展示期間である 2020 年度春学期に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためキャンパスへの入構制限が実施されたことから、その年度の秋学期も同じ展示を引き続き行いました。1 年を通じて同じ展示内容となったわけです。そのため、1 期分のずれが生じ、2022 年度春学期の展示は第 14 期となります。

2023 年度から当初の予定通り第 3 巡目をスタートさせるため、2022 年度は 3 期分の展示を行うことになるかもしれません。この場合、展示期間が例年とは異なりますので、ご注意ください。

さて、第 14 期である今回のテーマは、「同志社の ORIGIN – ALL DOSHISHA からのサポート」です。同志社大学の設立には多くの人々が関わっています。設立運動は、1882 年（明治 15）に新島が奈良県の土倉庄三郎より法学部を設置する条件で、約 5,000 円の寄付の約束を取り付けたことが始まりとされます。この土倉庄三郎という人物をご存知でしょうか。「どぐらしょうざぶろう」と読みます。「大和の山林王」と言われた富豪で、政治家との交際が深く、板垣退助のヨーロッパ視察を経済的に支援したと言われています。新島をたいへん信頼し、11 人の子女の大半を同志社に送り、教育を受けさせました。新島が土倉に宛てた手紙が『新島襄の手紙』（岩波文庫）にありますので、ぜひとも読んでみてください。新島と支援者との関わりの点から新島を見ることで、新島の新たな一面を知ることが出来るかもしれません。

今回の展示を通して、多くの支援者があってこそ、同志社大学が設立されたこと、それと、彼らの期待に新島がどのように応えたのかも知っていただきたいと思います。もちろん、名前は残っていなくとも、設立に向けて様々な形で新島を支えた方々が他にもいただろうことを決して忘れてはなりません。

同志社大学キリスト教文化センター所長
越後屋　朗
2022 年 3 月

目 次

ごあいさつ…… 1

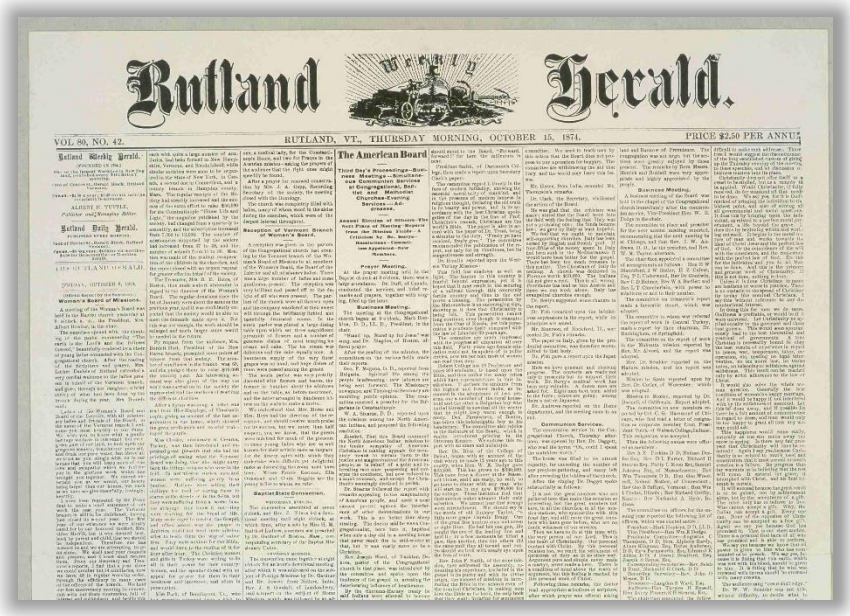
展示テーマ「新島襄への期待」…… 3

展示テーマ「新島襄の同志社大学設立運動」…… 13

資料リスト・使用写真リスト…… 23

展示テーマ
「新島襄への期待」

同志社の歴史は、1875 年（明治 8）の同志社英学校の開校から始まります。創設期の英学校は、アメリカの海外伝道会社であるアメリカン・ボード（American Board of Commissioners for Foreign Missions）の援助を受けていました。その援助は海外からの寄付です。つまり、英学校開校はボードを通じて寄せられた海外の篤志家からの期待の対象でもありました。ここでは、こうした期待を受け、新島が運営した同志社という学校の実態を示す資料を展示します。



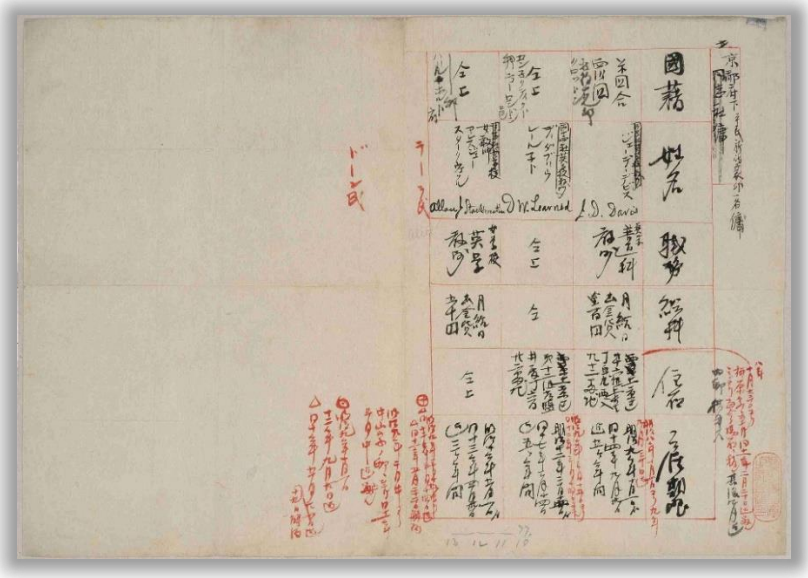
Rutland Weekly Herald.

VOL. 80, NO. 42. RUTLAND, VT., THURSDAY MORNING, OCTOBER 15, 1874. PRICE $2.50 PER ANNUM.

The American Board

Rutland Weekly Herald, vol.80, No.42（複製）1874 年 10 月 15 日発行　1 枚　60.5×45.8cm

この新聞は、アメリカ合衆国ヴァーモント州にあるラットランドで発行された地元紙（1874 年 10 月 15 日発行）です。同地で開催されたアメリカン・ボード第 65 回年次大会での新島襄に関する記事が掲載されています。新島はこの大会の最終日（同年 10 月 9 日）に日本に向かう宣教師の一人として挨拶の壇上にたち、そこで日本にキリスト教主義の学校を設立したいと聴衆に訴えかけたと言われます。新島の呼びかけに応じて約束された募金額は、約 5,000 ドルであったと言われます。

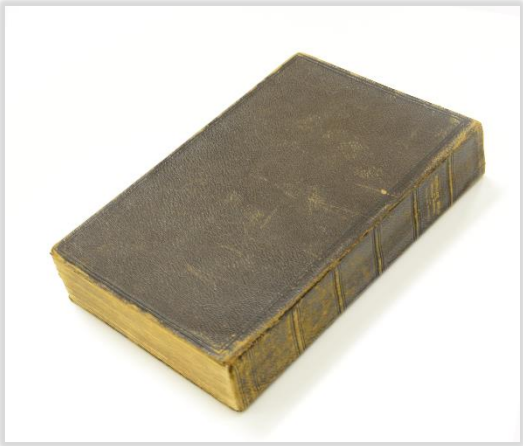


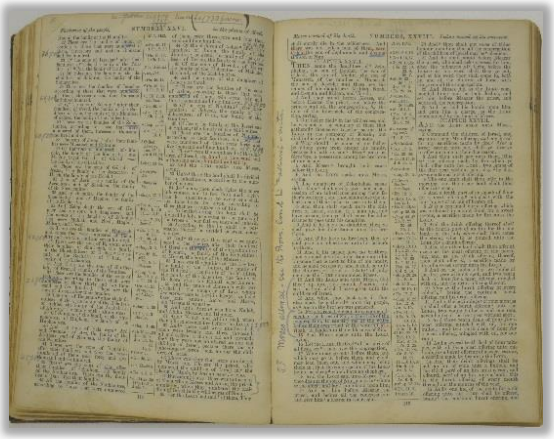
同志社外国人教師一覧（複製）明治時代　1 枚　28×39.3cm

同志社に在籍した一部の宣教師の個人情報がまとめられた一覧表です。1870 年代後半に作成されたと考えられます。英学校及び女学校の開校時には日本人教員も在籍していましたが、アメリカン・ボードが派遣した外国人宣教師も教師として多数在籍していました。とりわけ男性宣教師は、当時のアメリカ社会のトップエリートで、彼らが在籍していたことが同志社の学問性の高さをうかがわせます。また、宣教師の存在が、ボードから同志社へのマンパワーの提供を意味しています。

自責の杖（複製）明治時代　3 片　最大 60cm

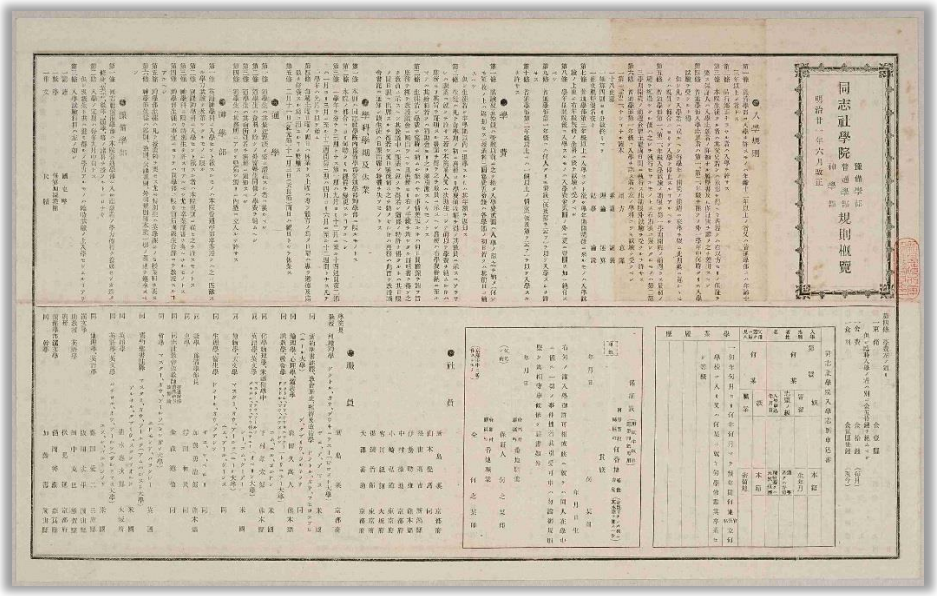
打掌で折れたとされる新島の杖です。1880 年（明治 13）4 月、当時 2 年生の上級組と下級組の合併決議を発端とする学内ストライキが発生し、学内が混乱しました。新島は同月 13 日の朝礼の席で、一連の騒動は学生や幹事の責任ではなく、校長である自らの責任として自らの手を杖で打ちつけました。この衝撃的な事件を物語る杖は、新島のキリスト教信仰に係わる贖罪感、そして教育観を伝える象徴として、これまで受け継がれています。





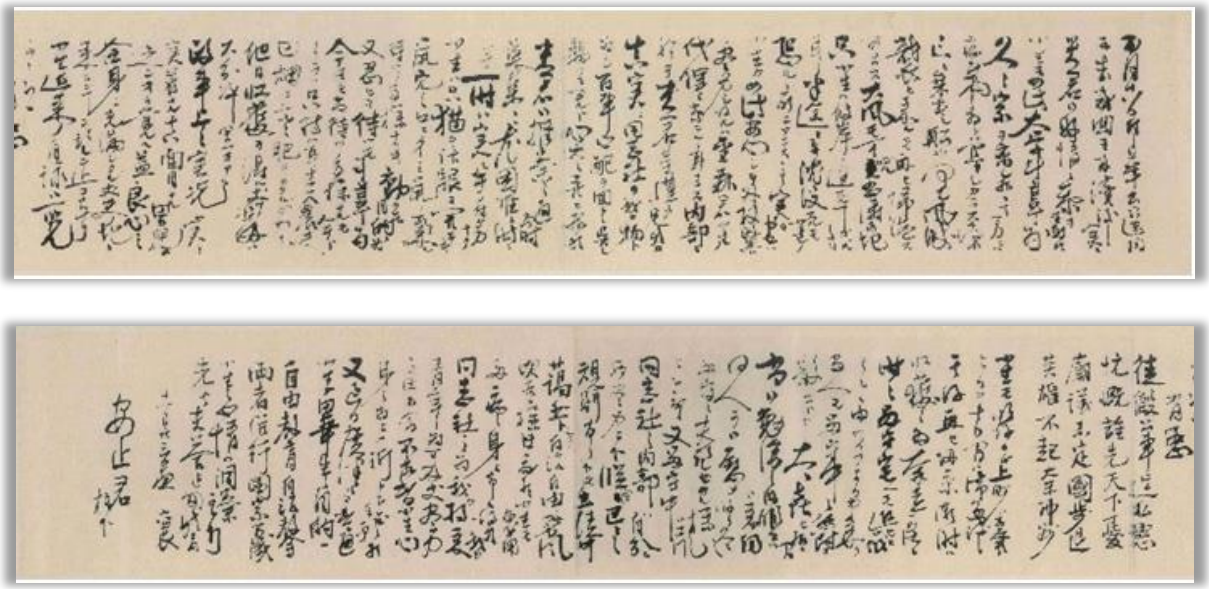
新島襄旧蔵聖書（複製）年不詳　1 冊　21×14cm

新島がアメリカに到着した翌年に、ハーディーが後見人を務めていた J.M.シアーズ（Joshua Montgomery Sears, 1854～1905）より贈られた英訳聖書です。手書きのメモや印は、新島のキリスト教に対する知的好奇心や信仰の深化過程を示しています。同志社は新島の在世中から自然科学や社会科学の専門学校を次々と開校させますが、その大前提としてキリスト教を徳育の基本としていました。この聖書は、同志社のキリスト教主義の歴史と重要性を示す資料のひとつです。



同志社学院規則概覧（複製）1888 年　1 枚　32.7×52.3cm

1888 年（明治 21）6 月時点での同志社内の学校概要を示す資料です。この年、同志社英学校が改組し、予備学部、普通学部、神学部を備えた同志社学院となります。学生数は 683 人（神学部 72 人、普通学部 405 人、予備学部 206 人、すべて年度末在籍者数）でした。さらに、翌年 1889 年（明治 22）に 3 つの学部はすべて単独の学校となります。この 3 校に、同志社女学校、京都看病婦学校、そして同志社病院を加えた 5 校、1 病院が当時の同志社の主要教育施設でした。

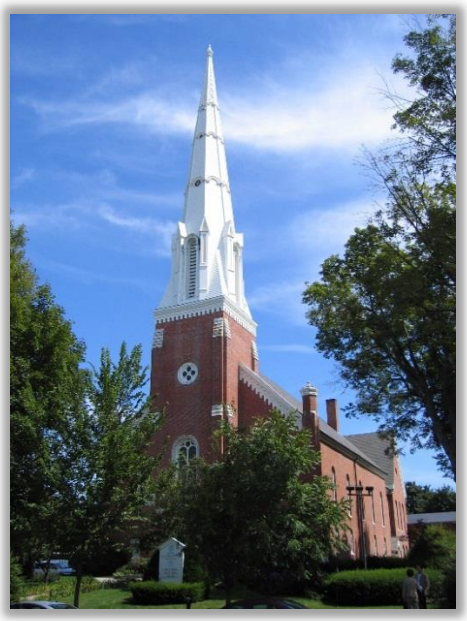


横田安止宛新島襄書簡（複製）　1889 年 11 月 23 日付　1 通　18×169cm

新島が 1889 年（明治 22）11 月 23 日、療養先の東京から同志社普通学校 5 年生の横田安止に送った手紙です。新島は憲法が発布され、国会開設を間近に控えた国家がどうあるべきかを手紙で語っています。また、この文中に、「良心」を表象する一文「良心之全身ニ充満シタル丈夫（ますらお）ノ起リ来ラン事ヲ望テ止マサルナリ」があります。新島の教育理念の象徴であるこの文言は、現在石碑に刻まれ「良心碑」となり、同志社諸学校や、新島の母校であるアメリカのフィリップス・アカデミーなどに建立されています。

＜ラットランド演説＞

油彩画「ラットランド演説」



グレイス教会

アメリカン・ボードの準宣教師として日本に派遣されることになった新島は、アメリカのヴァーモント州ラットランドのグレイス教会で開催されたボードの第 65 回年次総会最終日に挨拶のため登壇しました。この時初めて、新島は日本でのキリスト教主義学校設立の志を吐露します。その志に感銘を受けた聴衆から、その場で計約 5,000 ドルの寄付の約束を得ました。この寄付は、後に同志社の開校・運営に活用されたと言われます。

＜開校当初の今出川キャンパス＞

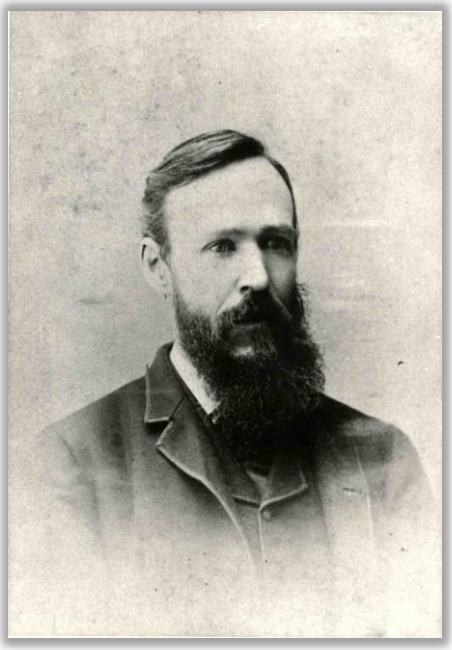
今出川校地最初の専用校舎　第一寮と第二寮

薩摩藩邸跡碑

同志社英学校最初の専用校舎は、木造の教室兼寮 2 棟と食堂で、在学生の多くは寄宿舎生でした。寺町通（現在の新島旧邸のある場所）の仮校舎から、今出川への移転は、開校翌年の 1876（明治 9）年 9 月でした。この土地は、新島襄が 1875（明治 8）年 6 月に、山本覚馬の力添えで購入した薩摩藩邸跡です。キリスト教禁教の高札撤去後も、キリスト教に対する反発が残る時代に、内裏（現在の京都御苑）の真北、京都五山第二位の相国寺の門前に校地を構えることになりました。

＜デイヴィスとラーネッド＞

J．D．デイヴィス



D．W．ラーネッド

J.D. デイヴィスと D.W. ラーネッドは、ともに同志社の発展に生涯の多くを捧げたアメリカン・ボードの宣教師です。デイヴィスは、設立時から同志社の教育と運営の両面に尽力し、ラーネッドも多種多様な講義を受け持ち、日本で最初に経済学の講義を行ったことで知られています。同志社の振興に大きく貢献した二人の名前は、京田辺校地の「デイヴィス記念館」と「ラーネッド記念図書館」に冠されています。

＜同志社礼拝堂＞

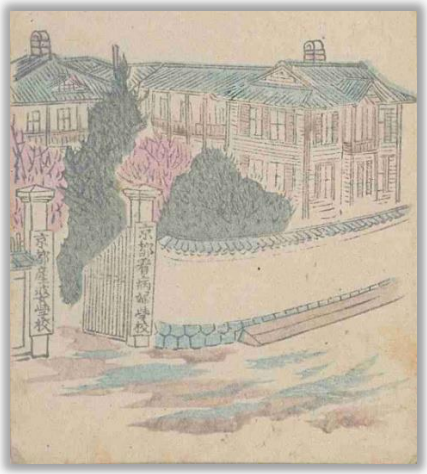
竣工当時の同志社礼拝堂

竣工当時の礼拝堂内部

礼拝堂が完成する半年前の 1885（明治 18）年 12 月 18 日、同志社礼拝堂定礎式が挙行されました。この時新島は「教育ノ基本ハ宗教ニアリ」、「此礼拝堂ハ我同志社ノ基礎トナリ又タ精神トナル者」と述べ、礼拝堂が同志社の象徴的存在であることを示しました。現在も礼拝堂は宗教教育の中心的な場を担っています。

＜同志社病院・京都看病婦学校＞

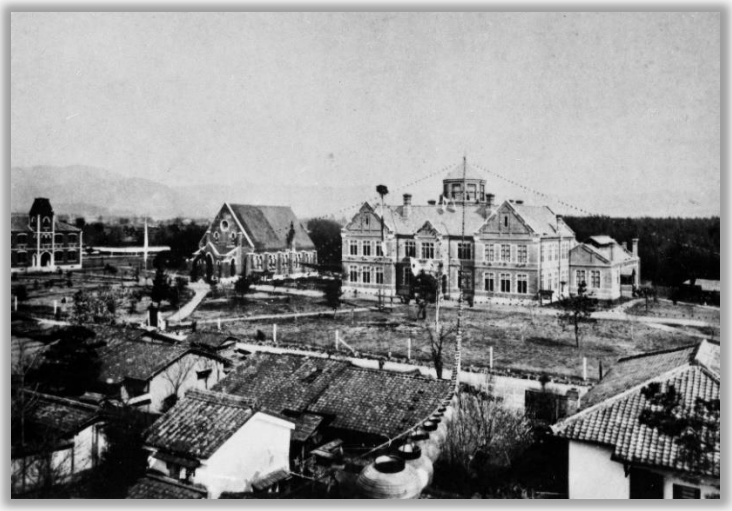
京都看病婦学校校舎



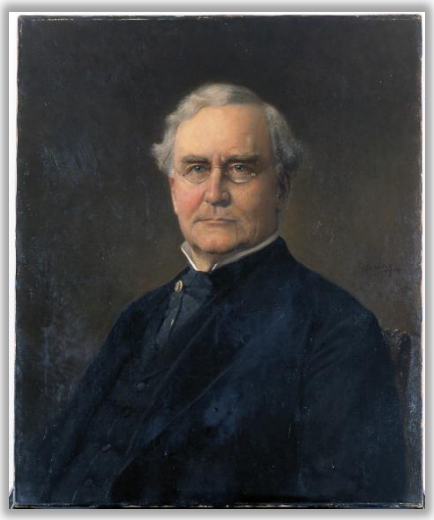
封筒（部分）京都看病婦学校絵入

1886 年（明治 19）開院・開校。かつて現在の KBS 京都の場所（上京区烏丸上長者町）にありました。新島は当初医学校の開設を目指し、協力者である J. C. ベリーとともに教派を越えて資金集めに奔走していました。しかし、諸事情から開校資金の目処が立たず、最終的には病院の開院と看病婦学校の開校に落ち着きました。特に、看病婦学校は同志社開校から 11 年目にして開校した、同志社初の自然科学系専門教育機関でした。

＜J. N. ハリスとハリス理化学校＞



竣工時のハリス理化学館



ナポレオン・サロニー作「J．N．ハリス肖像画」

J.N. ハリスはアメリカ・コネティカット州セイレム生まれ、同州ニュー・ロンドンにて 20 歳から商業に携わって成功し、ハリス商会を設立します。後には、本業とともに銀行の頭取や製薬会社の社長をも兼務するなど、財界で成功した人物でした。また、教育・宗教関係への多額の寄付者としても知られていました。ハリスは新島の理化学教育に対する熱意に賛同し、同志社へ 10 万ドルを寄付します。その一部がハリス理化学館建設に充てられ、同時にハリス理化学校が開校しました。ただし、ハリス理化学校は財政難のため、7 年で閉校になります。同志社における理化学教育の再興は、1944 年（昭和 19）同志社工業専門学校開校の時でした。現在のハリス理化学研究所はハリス理化学校の伝統の上に立ち、革新的な研究を続け、学生の教育・研究の活性化を促進しています。

＜クラーク神学館＞

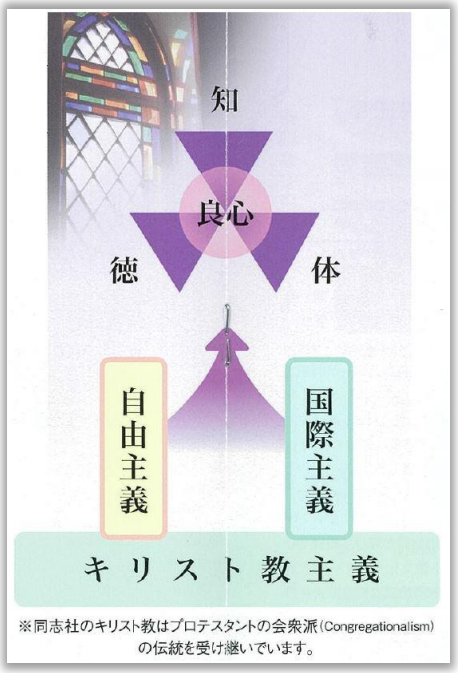
竣工当時のクラーク神学館

Byron Stone-Clarke Memorial Hall

玄関欄間に刻まれたクラーク神学館の正式名称

新島の永眠後、彼を記念する神学館を建築しようと、校友による募金活動が行われました。しかし、なかなか結果が伴いません。そのような折に、アメリカン・ボードを通じて B. W. クラーク夫妻から、亡くなった子息 B. S. クラークの名を館名に冠するという条件で、10,000 ドルの寄付を受けました。その寄付を元手に、1894 年（明治 27）、尖塔が特徴的な煉瓦の建物が竣工しました。竣工当時は神学教育の中心でしたが、1963 年（昭和 38）の現在の神学館完成後、クラーク記念館と改名されました。

＜同志社の精神的な基底をなすキリスト教主義＞



キリスト教主義と教育理念の関係を表す相関図

同志社の支柱である自由主義と国際主義を基底で支えるものは、キリスト教主義です。これは同志社独自の校風を形成する最大の要素となっています。新島は、学生一人ひとりを、神がつくられた「人格」として最大限に尊重しました。以来、「人ひとりは大切なり」が大事な校風として守られてきました。その結果、聖書にあるように、隣人を尊重し、他者に奉仕する「地の塩、世の光」とも言うべき個性豊かな多くの卒業生を、いろいろな分野へ開拓者として送りこんできました。そうした営みは、これからも永続します。

＜チャペル・アワー（キリスト教文化センター主催）＞

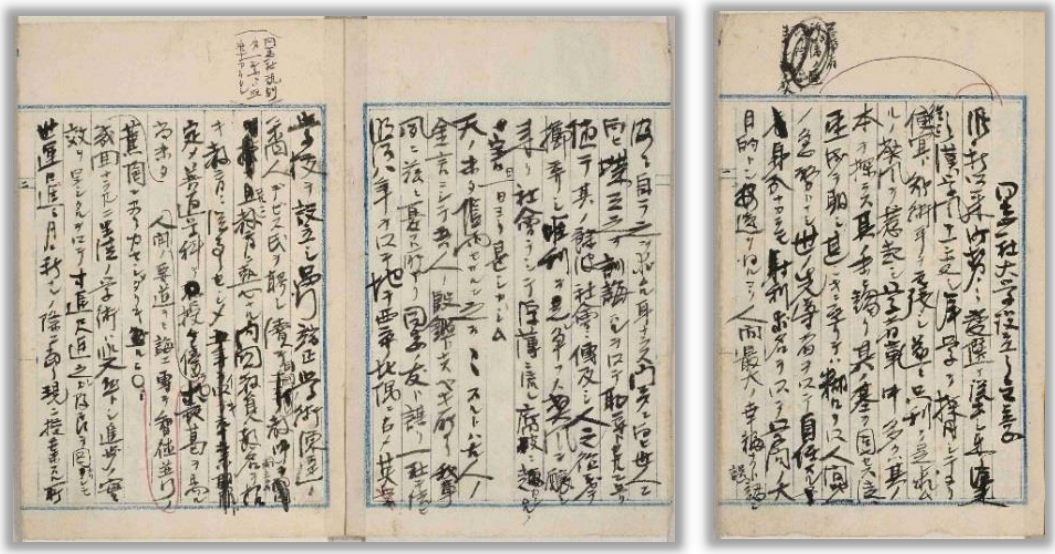
京田辺校地　言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂

開講期間中、両校地の礼拝堂においてそれぞれ週 3 回行われており、現代に生きる人間の諸問題をめぐって、本学教職員や教会の牧師、そして様々な分野で活躍されている方々に奨励していただいています。チャペル・アワーは礼拝形式であり、オルガンの奏楽で始まり、讃美歌斉唱、聖書朗読、祈祷、奨励者によるメッセージ、祝福などが行われています。クリスチャンでない方々にも親しみが持てるように、日々の暮らしにまつわる話などを交えながら、イエス・キリストや聖書のことばをわかりやすく語っていただけます。また、教職員の場合には、同志社におけるご自身の学びや体験をお話されることもあります。学生の皆さんだけではなく、地域の方々も参加されていますので、ぜひ気軽にお越し下さい。

	京田辺校地	今出川校地
火曜日	ランチタイム（12：35～13：00）	17：30～18：10
水曜日	15：00～15：45	10：45～11：30
金曜日	ランチタイム（12：35～13：00）	ランチタイム（12：35～13：00）

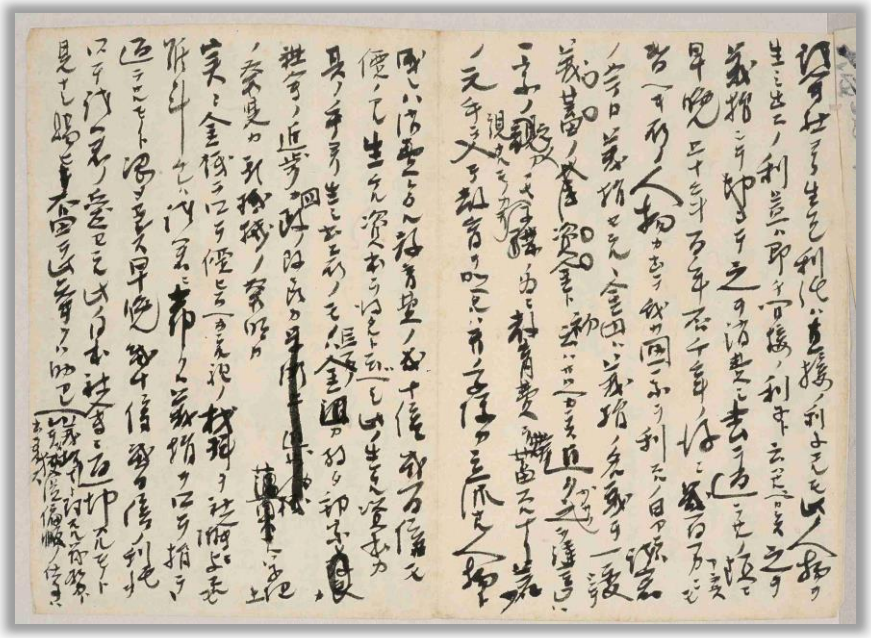
展示テーマ
「新島襄の同志社大学設立運動」

同志社英学校開校から7年後の1882年（明治15）、新島は大学の設立を目指して募金運動を始めます。きっかけは、奈良県の土倉庄三郎からの5000円の寄付の約束を得たことでした。以来、新島は永眠するまでの約8年間この運動に従事します。ここでは、この運動の内容をうかがい知れる資料を通じて、新島が考えた同志社大学のあり方を考えます。



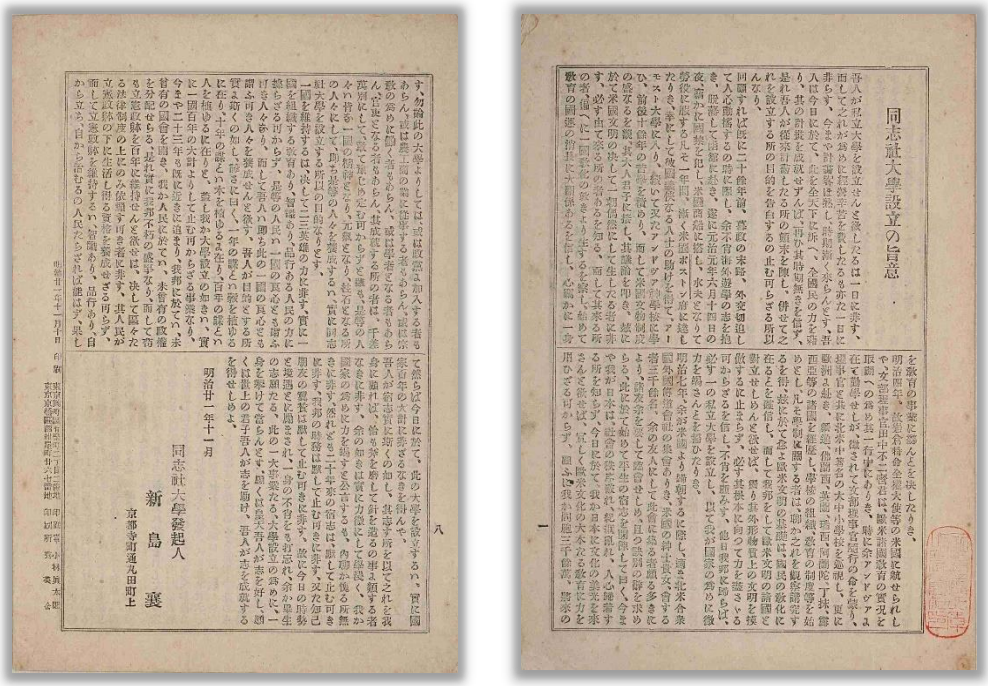
同志社大学設立之主意之骨案（複製）　1882 年　1 冊　26×19cm

1882 年（明治 15）11 月に新島が下書きした同志社大学設立を世に訴えるための文章で、現存する最も古い草稿です。新島が考えた最初の学部構想は、最初に宗教兼哲学部、医学部、法学部を優先して設け、資力が伴えば、理学部および文学部を設けるというものでした。また、大学の必要性を感じた理由は、この当時行われていた同志社の授業の内容は「学術ノ大意初歩」であり、「学術の奥蘊（原文ママ）」、すなわち専門的に学問を修める場を準備する必要性と需要を認識したことが挙げられています。



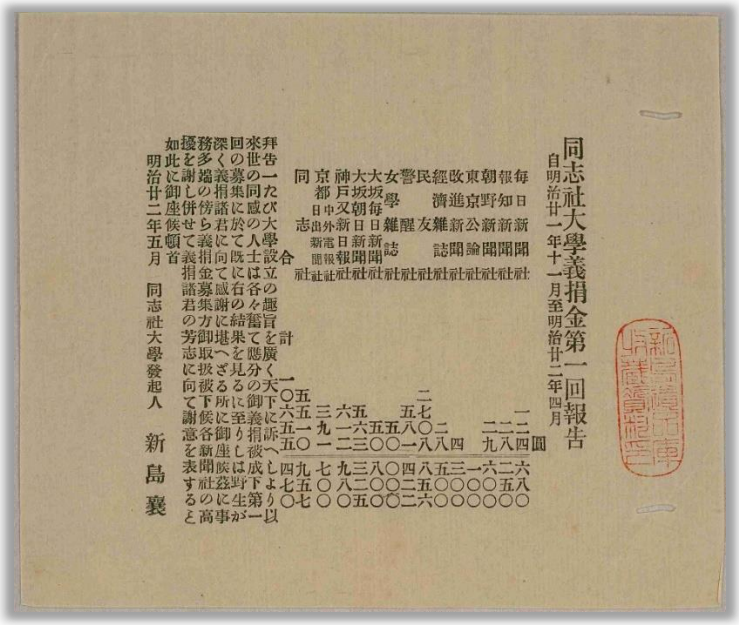
演説草稿（複製）年不詳　3 枚　25×35cm

1889 年（明治 22）ごろに新島が大阪で行ったと考えられている演説の草稿です。将来大規模な経済発展が見込める大阪の人々からの募金（義捐金）を募るために、募金の意義、そして、これに対する同志社大学が果たす役割が説かれています。募金とは見返りのない行為ではなく、将来の社会発展に寄与する人物の育成に寄与し、結果、のちの間接的利益につながるとし、その人物の育成に同志社大学が貢献するとあります。



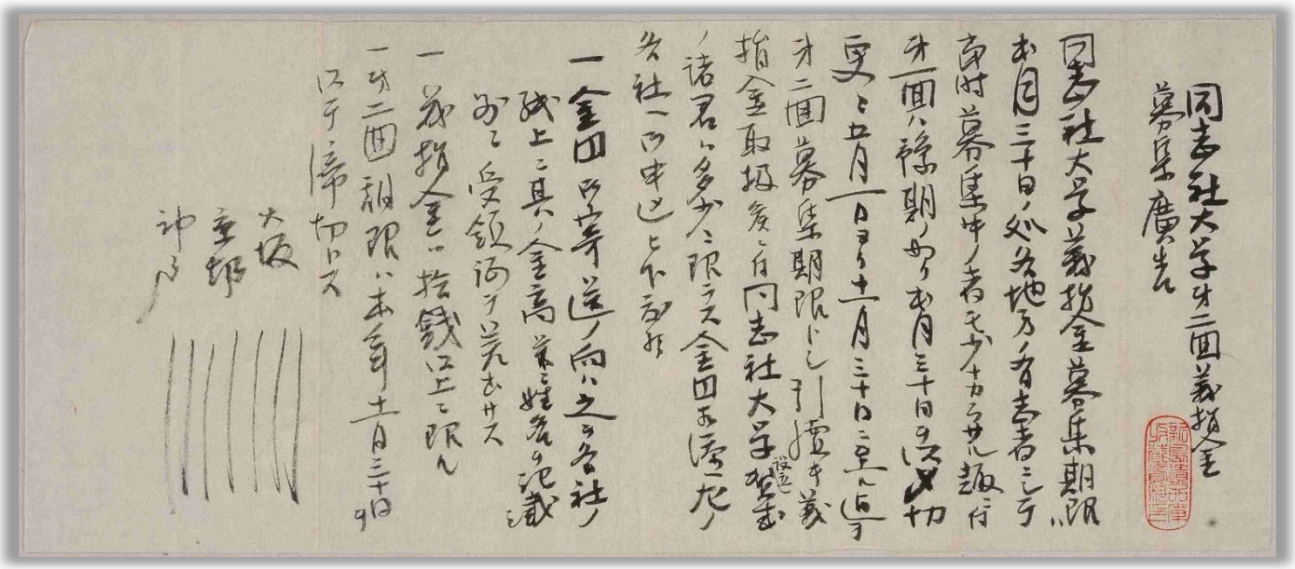
同志社大学設立の旨意（複製）　1888 年　1 冊　21.5×14.8cm

1888 年（明治 21）11 月から配布されたパンフレット。新島襄が骨子をつくり、徳富蘇峰が文章化したと言われます。この内容は、全国の新聞や雑誌に掲載され、国内で広く広報されました。この中で新島が訴えた大学設立の目的は、「一国の良心」を育てることでした。



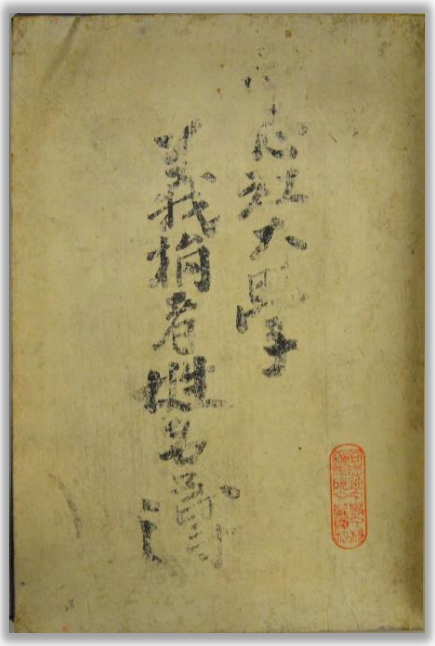
同志社大学義捐金第一回報告（複製）1889 年　1 枚　13.5×16cm

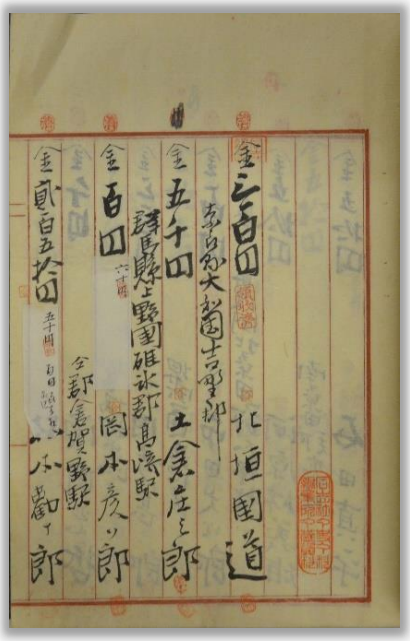
「同志社大学設立の旨意」を発表した 1888 年 11 月から翌年 4 月までの半年間で寄せられた寄付金額を報告する資料です。協力した雑誌社および新聞社に対する新島名義の礼状が添えられています。第 1 回での寄付金額は、新島が存命中に集めた寄付金の 6 分の 1 に相当します。



草稿「同志社大学第二回義捐金募集広告」（複製）1889 年　1 枚　16.5×40cm

第 2 回目の募金受付を告知するための草稿です。文面から、引き続いて受付期間を設ける必要があるほど寄付の申し出があったことが窺われます。この第 1 回と第 2 回をあわせた新聞社の協力による募金額は、約 11,300 円でした。





同志社大学義捐者姓名簿（複製）　1889 年　1 冊　26.5×18cm

1889 年（明治 22）にまとめられた義捐金寄付者の名簿です。この名簿には大口から小口の寄付まで、寄付者の姓名が、匿名の希望がない限り、実名で記載されています。幅広く社会から支持を得て大学を設立しようとした意図が窺える資料です。

＜同志社大学設立運動＞

1

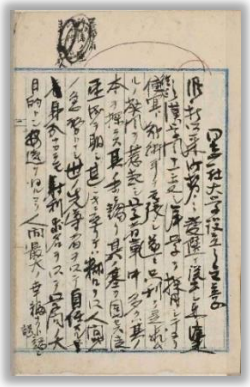
2

1「同志社大学設立之主意之骨案」冒頭部分（1882 年）

2 大口寄付者の一覧（1888 年）（「同志社大学設立の旨意」所収）

大学設立運動の端緒は、新島が 1882 年（明治 15）に奈良県の土倉庄三郎から法学部設置を条件に 5000 円の寄付の約束を得たときと言われます。その 6 年後、新島らは 1888 年（明治 21）11 月から全国の新聞雑誌に「同志社大学設立の旨意」を発表します。この発表は、1889 年（明治 22）の大日本帝国憲法公布、1890 年（明治 23）の国会開設を直前に迎えた時期でした。「旨意」ではこうした社会状況を前提として、大学教育で目指す人物像を「良心を手腕に運用するの人物」、「自治自立の人民」、「一国の精神となり、元気となり、柱石となる所の人々」、そして「一国の良心」と表現しています。これを可能ならしめるのは、これまでに同志社の各学校で実施され、世間の信頼を得てきた「徳育知育二つながら並行して、決して偏僻なる教育に陥らざる事」としています。

＜新島襄が考えた同志社大学＞

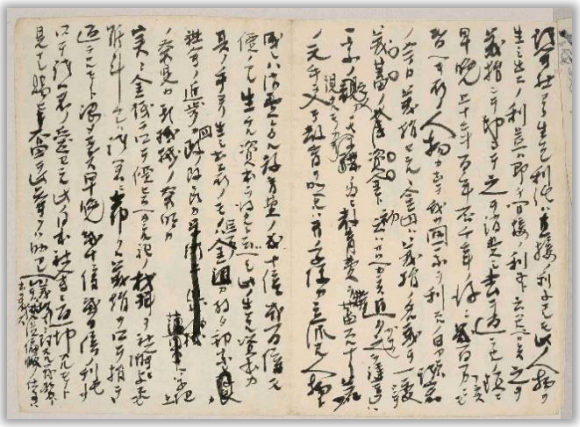


同志社大学設立之主意之骨案（1882 年）

同志社大学設立の旨意（1888 年）

新島は開校から 7 年後に同志社大学を設立するための募金運動に着手します。当時、大学と名のつく学校は東京大学のみでした。新島襄が書き残した資料には、なぜ大学が必要か、大学が国家や社会に対してどのような役割を果たすかを、アメリカやイギリスの事例を用いて説明しています。これを前提として、1882 年（明治 15）、新島は 5 学部（宗教兼哲学、医学、法学、理学、文学）を備えた大学の設立を構想しました。そして、1888 年（明治 21）の時点では神学、政治、経済、哲学、文学、法学などに関連した学科設置を優先と考えるようになっています。大学で学ぶ分野に関しては世の中の動きに合わせて変化しましたが、「基督教主義を以て、我か同志社大学徳育の基本と為す」という学生・生徒の内面に対する教育方針は不変でした。

＜新島襄が伝えた寄付の意味＞



演説草稿

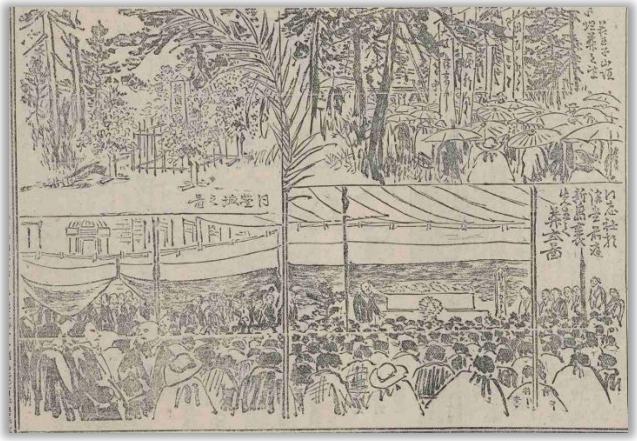
諸会社ヨリ生スル利純ハ直接ノ利子ナルモ此人物ヲ生シ出スノ利益ハ即チ間接ノ利子ト云ハサルベカラスヲ義捐シテ之ヲ消費シ去テ返ラサルノ類ニアラス早晩五十年百年否千年ノ後ニ幾百万ニモ替ヘキ所ノ人物カ出テ我カ国家ヲ利スルノ日アラハ諸君ノ今日義捐セラルヽ金円ハ義捐ノ名義ヲ一変シテ義蓄ノ資金ト初云ハサルヘカラス近ク少サク之ヲ譬フレハ一家ノ親ナルモノカ其子供ノ為ニ教育費ヲ貯蓄スルナリ差少ノ元手ヲ入テ教育ヲ加ヘタルハ其子供カ立派ナル人物ト成レハ消費シタル教育費ノ幾十倍幾百倍モ價ノアル生ケル資本ヲ得タルト云ベシ此ノ生ケル資本カ其ノ手ヨリ生ミ出ス所ノモノハ巨万ノ金円カ将タ邦家社会ノ進歩カ国政ノ改良カ学理上ノ発見カ新機械ノ発明カ実ニ金銭ヲ以テ價ヒスヘカラル程ノ材料ヲ社会ニ附与スルモ難斗ケレハ諸君ニ希クハ義捐ヲ以テ損テヽ返ラサルモノト認ラレス早晩幾十倍幾百倍ノ利純ヲ以テ諸君ノ愛セラル此ノ日本社会ニ返却スルモノト見ナシ賜ヒ奮テ此挙ヲハ助アレ（義捐者ニ対スル義務トシテモ狭隘偏頗ノ仕事ハ出来ス

釈文

明治時代に寄付という考え方が世間一般に浸透していたかは定かではありません。そのためか、新島は寄付を呼びかける際に、その寄付の意義も伝えています。新島は大阪での演説で、同志社大学設立のための寄付（義捐）として寄せられる金銭を「義蓄資本」あるいは「義蓄ノ資金」と表現しています。その理由は、高度な専門性と道徳性をもって社会の進歩に貢献し、日本国民に多大な恩恵をもたらす人物を育成する大学への金銭的投資は「間接ノ利益」であると同時に「金銭ヲ以テ価ヒスヘカラザル程ノ材料」を社会に与え、結果としてこれを享受することになるとしています。無から作り上げる新しいものへの理解と期待を訴え、それに対する義務の遂行を約束する形で、新島は大学設立への協力を求めました。

＜新島襄の永眠＞

久保田米僊「故新島先生長逝状景画四葉」のうち臨終図



「国民新聞」第４号掲載葬儀記事挿絵（部分）

同志社の持続可能な発展のために尽力してきた新島は、1889 年（明治 22）11 月に関東で体調を崩し、翌月より神奈川県大磯にあった百足屋で病気療養に入りました。しかし、療養の甲斐なく、1890 年（明治 23）1 月 23 日、駆けつけた妻・八重や教え子の徳富猪一郎らに見守られて永眠しました。46 歳でした。同志社の運営に尽力したのは 15 年です。その後、新島の亡骸は京都に戻され、今出川キャンパスの同志社礼拝堂前で葬儀が行われました。4000 人が参列したといわれます。そして、学生らが棺を担ぎ、若王子山頂（現在の同志社墓地）に埋葬されました。

＜同志社大学の誕生＞

1

2

1 専門学校令による同志社大学開校式　1912 年（明治 45）
2 専門学校令による同志社大学開校記念集合写真　1912 年（明治 45）

同志社大学がこの世に初めて誕生したのは 1912 年（明治 45）5 月、専門学校令による同志社大学が開校した時でした。この時に盛大な開校式が催されたことが写真からもうかがえます。ただし、この時の大学は文部省が規定する専門学校という位置付けであり、学校制度上最高位に位置する大学という意味ではありませんでした。大学として認められたのは、1920 年（大正 9）に大学令による同志社大学の開校の認可を受けた時でした。同志社大学は日本で 3 番目に、明治大学、法政大学、中央大学、日本大学、國學院大學の 5 校と共に大学設立の認可を受けました。

＜同志社への期待＞

同志社アーモスト館

同工館

同志社に対する寄付は大学設立に限ったことではありません。例えば、アメリカの篤志家 J. N. ハリスは同志社の理化学教育のために 10 万ドルの寄付をよせ、これを元にハリス理化学校と専用校舎ハリス理化学館（国指定重要文化財）が建設されました。昭和初期には、新島襄の母校であるアーモスト大学、同大学卒業生からの寄付を受け取り同志社アーモスト館（国指定登録有形文化財）が建設されました。戦後には、1944 年（昭和 19）に開校した同志社工業専門学校と新制大学工学部（現・理工学部）の父兄会からの寄付で工学部専用校舎同工館が建設されました。このように、同志社は創立以来多くの人々の「義蓄ノ資本」を受け取り、社会に還元するために教育・研究活動を進めてきました。

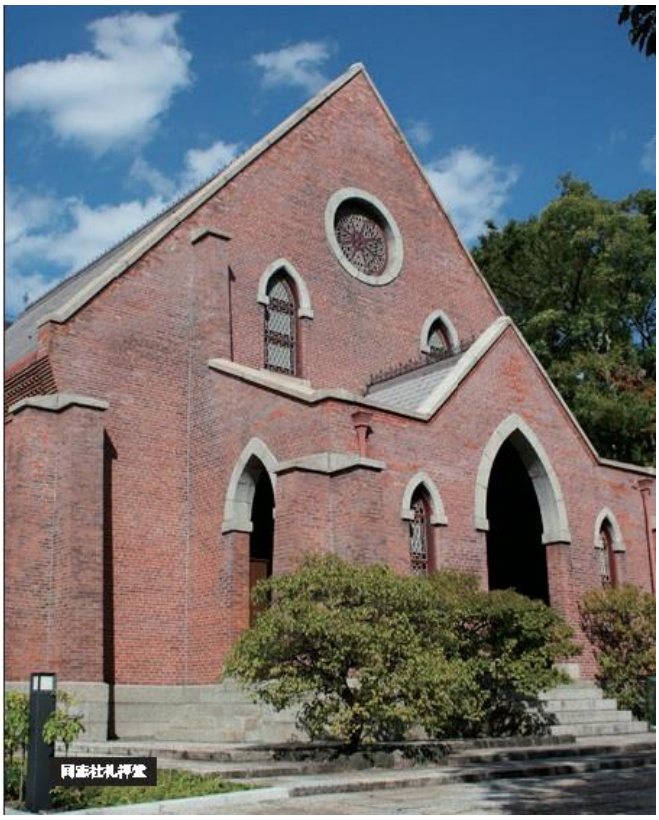
＜同志社大学の建学の精神「良心教育」＞

良心碑

同志社教育の原点は「良心」といえます。創立者の新島襄は誰よりも「良心」を高く評価しました。新島は9年におよんだ欧米での生活を通して、キリスト教、とくにプロテスタントが文化や国民に与えた精神的感化がいかに巨大であるかを体得して帰国しました。そのひとつが「良心」で、これは「人間の目」ではなく、「神の目」を意識して初めて芽生えるものと考えられています。

新島は、日本の教育は智育に力を入れる半面、「心育」、今の言葉で「こころの教育」が疎かにされていると考えていました。そして、新島には、人は宗教的教育により「良心」を育みようやく「人間」となる、との信念がありました。「同志社大学設立の旨意」で、「一国の良心」を育成したいと、謳ったのもそのためといえます。この言葉を彫った「良心碑」は、両校地の大学正門近くにあるものをはじめ、日米に9基存在しています。

＜今出川校地のチャペル（同志社礼拝堂、クラーク・チャペル、神学館礼拝堂）＞



同志社礼拝堂

クラーク・チャペル

神学館礼拝堂

【同志社礼拝堂】（重要文化財）
D.C.グリーンによる設計で 1886（明治 19）年に竣工したプロテスタントの煉瓦造チャペルとしては日本に現存する最古の建物です。正面中央に円形のバラ窓、左右にアーチ窓を設け、その前に屋根と尖りアーチの入口を持っており、ゴシック建築の特徴が出ています。

【クラーク・チャペル】（クラーク記念館：重要文化財）
クラーク記念館は、R.ゼールの設計で 1894（明治 27）1 月に開館したドイツ・ネオ・ゴシック様式の建物です。B.W.クラーク夫妻からのアメリカン・ボード経由での寄付により建築され、チャペルはその 2 階にあります。

【神学館礼拝堂】
神学館は、同志社神学教育の拠点で、1963（昭和 38）年 7 月に竣工しました。3 階に礼拝堂があり、入口の壁面には、ヘブライ語で旧約聖書の創世記 1 章 1 節から 5 節が大きく刻まれています。また正面の壁のステンドグラスや天井から吊り下げられている茨の冠（十字架を新しい形で表現している）等の特徴があります。

同志社礼拝堂とクラーク・チャペルでは卒業生がウエディングを行うことができ、卒業後も続く大学とのつながりを象徴しています。

ポスターパネル

＜Doshisha Spirit Week（キリスト教文化センター主催）＞

同志社大學應援団による演舞

講演会

キャンパスめぐり隊

同志社大学には、建学以来脈々と受け継がれてきたキリスト教主義教育、新島襄の教育理念、そしてその実践といった建学の精神と伝統があります。 Doshisha Spirit Week は、キリスト教主義教育や創立者新島襄に触れ、同志社人としてのアイデンティティを高めることを目的として2003 年から始まり、毎年春学期（5 月末～6 月初旬ごろ）と秋学期（10 月末～11 月初旬ごろ）に 1 週間開催されています。 期間中には、学内外からのゲストスピーカーによる講演会、建学の精神や同志社の歴史に関する資料展示、キャンパス内を中心に見学する「キャンパスめぐり隊」や同志社大學應援團による演舞などさまざまな企画を行っています。

資料リスト（全て複製）

資料名	作者・著編者	年代	法量（cm）	員数	所蔵先
展示テーマ「新島襄への期待」					
Rutland Weekly Herald, vol.80, No.2	Albert H. Tuttle	1874.10.15	60.5×45.8	1枚	同志社社史資料センター
同志社外国人教師一覧	新島襄	明治時代	28×39.3	1枚	同志社社史資料センター
自責の杖	－	明治時代	最大60	3片	同志社社史資料センター
新島襄旧蔵聖書	－	年不詳	21×14	1冊	同志社社史資料センター
同志社学院規則概覧	同志社	1888	32.7×52.3	1枚	同志社社史資料センター
横田安止宛新島襄書簡	新島襄	1889.11.23	18×169	1通	同志社社史資料センター
展示テーマ「新島襄の同志社大学設立運動」					
同志社大学設立之主意之骨案	新島襄	1882	26×19	1冊	同志社社史資料センター
演説草稿	新島襄	年不詳	25×35	3枚	同志社社史資料センター
同志社大学設立の旨意	新島襄	1888	21.5×14.8	1冊	同志社社史資料センター
同志社大学義捐金第一回報告	新島襄	1889	13.5×16	1枚	同志社社史資料センター
草稿「同志社大学第二回義捐金募集広告」	新島襄	1889	16.5×40	1枚	同志社社史資料センター
同志社大学義捐者姓名簿	－	1889	26.5×18	1冊	同志社社史資料センター

写真リスト

ポスターパネルタイトル	写真・画像	年代	所蔵先
展示テーマ「新島襄への期待」			
ラットランド演説	油彩画「ラットランド演説」	1960年代	同志社社史資料センター
	グレイス教会	現代	同志社社史資料センター
開校当初の今出川キャンパス	今出川校地最初の専用校舎　第一寮と第二寮	1870年代後半	同志社社史資料センター
	薩摩藩邸跡碑	現代	同志社社史資料センター
デイヴィスとラーネッド	J. D. デイヴィス	明治時代	同志社社史資料センター
	D. W. ラーネッド	明治時代	同志社社史資料センター
同志社礼拝堂	竣工当時の同志社礼拝堂	1886年ごろ	同志社社史資料センター
	竣工当時の礼拝堂内部	1886年ごろ	同志社社史資料センター
同志社病院・京都看病婦学校	京都看病婦学校校舎	1893年	同志社社史資料センター
	封筒（部分）京都看病婦学校絵入	明治時代	同志社社史資料センター
J. N. ハリスとハリス理化学校	竣工時のハリス理化学館	1890年ごろ	同志社社史資料センター
	ナポレオン・サロニー作「J. N. ハリス肖像画」	1891年	同志社社史資料センター
クラーク神学館	竣工当時のクラーク神学館	1893年ごろ	同志社社史資料センター
	玄関欄間に刻まれたクラーク神学館の正式名称　Byron Stone-Clarke Memorial Hall	現代	同志社社史資料センター
同志社の精神的な基底をなすキリスト教主義	キリスト教主義と教育理念の関係を表す相関図（キリスト教文化センター発行『基督教主義を以って徳育の基本と為せり-同志社大学とキリスト教主義-』所収）	現代	キリスト教文化センター
チャペル・アワー	京田辺校地　言館(KOTOBA-KAN)礼拝堂	現代	キリスト教文化センター
展示テーマ「新島襄の同志社大学設立運動」			
同志社大学設立運動	「同志社大学設立之主意之骨案」	1882年	同志社社史資料センター
	大口寄付者の一覧（「同志社大学設立の旨意」所収）	1888年	同志社社史資料センター
新島襄が考えた同志社大学	「同志社大学設立之主意之骨案」	1882年	同志社社史資料センター
	「同志社大学設立の旨意」	1888年	同志社社史資料センター
新島襄が伝えた寄付の意味	演説草稿	年不詳	同志社社史資料センター
新島襄の永眠	久保田米僊「故新島先生長逝状景画四葉」のうち臨終図	年不詳	同志社社史資料センター
	「国民新聞」第4号掲載葬儀記事挿絵（部分）	1890年	同志社社史資料センター
同志社大学の誕生	専門学校令による同志社大学開校式	1912年	同志社社史資料センター
	専門学校令による同志社大学開校記念集合写真	1912年	同志社社史資料センター
同志社への期待	同志社アーモスト館	1935年	同志社社史資料センター
	同工館	1950年ごろ	同志社社史資料センター
同志社大学の建学の精神「良心教育」	良心碑	現代	キリスト教文化センター
今出川校地のチャペル（同志社礼拝堂、クラーク・チャペル、神学館礼拝堂）	同志社礼拝堂	現代	キリスト教文化センター
	クラーク・チャペル	現代	キリスト教文化センター
	神学館礼拝堂	現代	キリスト教文化センター
Doshisha Spirit Week	同志社大學應援団による演舞	現代	キリスト教文化センター
	講演会	現代	キリスト教文化センター
	キャンパスめぐり隊	現代	キリスト教文化センター

同志社京田辺会堂光館ラウンジ展示第 14 期展

「同志社の ORIGIN－ALL DOSHISHA からのサポートー」

編集：同志社大学同志社社史資料センター
発行：同志社大学キリスト教文化センター
発行日：2022 年 3 月 18 日
ⓒDoshisha Archives Center and Center for Christian Culture